



▼東日本大震災前後の田んぼ



2010年



2010年



2011年4月28日(復元前)



2011年5月8日(復元後)

第3回 田んぼ10年 (持続可能な田んぼを考える) プロジェクト全国集会

日時 8/20 日 13:00~17:40

会場 AP 秋葉原会議室

東京都台東区秋葉原1番1号 秋葉原ビジネスセンター

参加費：無料(資料代 500円)



基調報告Ⅰ：呉地正行(ラムネットJ 共同代表・水田部会部会長)

「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」とその進捗状況

基調報告Ⅱ：マティアス・ハルワート(FAO持続可能な農業プログラム 主席オフィサー)

「持続可能な食料および農業と国連持続可能な開発目標(SDGs)のためのFAO共通ビジョン—水田の生物多様性の例、そして人々・暮らし・自然に対するその重要性」

主催：特定非営利活動法人ラムサール・ネットワーク日本

協力：いすみ市・NPO 田んぼ・民間稲作研究所・コープデリ生活協同組合連合会

後援：農林水産省・環境省・国際自然保護連合 日本委員会 (IUCN-J)



このイベントは、平成29年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催されます。



寒風沢島の田植え



トノサマバッタ



生きもの調査



除草機を押す子どもたち

第3回田んぼ10年プロジェクト全国集会

ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ)は、ラムサール条約および生物多様性条約(CBD)の水田決議の理念に基づき、国内及び国際的な場で田んぼの生物多様性の向上をめざす取り組みを行っています。現在2020年を目標年とする「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト(以下、田んぼ10年プロジェクト)」を国内外で実践しています。この取り組みは、2010年に名古屋で開催されたCBD第10回締約国会議(名古屋)で、世界の全ての参加国が合意した、『2020年までに生物多様性の回復をめざす』愛知目標の水田版です。愛知目標と同様、目標達成年である2020年に向けて、水田における生物多様性の向上を図るべく「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」行動計画を作成し、具体的な取り組み内容を提示し、それを実践する仲間の拡大に努め、現在、参加登録団体/個人は200を超えました。愛知目標の達成年の2020年まであと3年を残すのみとなりました。愛知目標の水田版である「水田目標」達成をめざす田んぼ10年プロジェクトをさらに進めるため、以下の点などについて整理・議論を行います。

- ◆ 目標の到達度の確認
- ◆ これからの3年間特に力を入れるべき課題
- ◆ 2020年以降の活動のあり方

これらの議論を行う第3回全国集会では、国際的な視点から、FAOの持続可能な農業プログラムの主席オフィサーであるマティアス・ハルワート氏を招き、基調講演をしていただきます。また国内で「生物の多様性を活かした有機稲作」を実施・推進している民間稲作研究所の稲葉光國氏、学校給食有機米100%達成をめざそうとしている千葉県・いすみ市、農業の現場と消費者をつなぎ、持続可能な農業への貢献をめざすコープデリ事業連合、田んぼの生きもの市民調査にかかわるNPO田んぼなどの方々からそれぞれの取り組み等の話を聞き、これらを踏まえて、田んぼ10年プロジェクトの成果と今後の課題、方針について議論を深めます。



参加申込み

《WEBフォームから》<https://goo.gl/xhFTLx> より入力ください。

《メール・FAX・電話から》①～⑦をお知らせください。

- ①お名前、②ご所属、③メール、④電話、⑤住所(都道府県)、⑥ポスター展示の希望の有無、⑦このイベントを知った媒体(メール、チラシ、友人、その他)

■問い合わせ先: info@ramnet-j.org TEL&FAX 03-3834-6566 (担当:ラムサール・ネットワーク日本/後藤)

※人数確認のため事前登録にご協力ください。直前まで可。当日参加の方は入口で受け付けできます。

プログラム

◆主催者挨拶・来賓挨拶(13:00~13:15)

◆基調報告Ⅰ(13:15~13:45)

「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」とその進捗状況

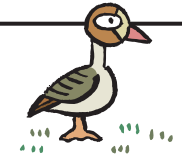
呉地 正行(ラムネットJ共同代表・水田部会部会長)

◆基調報告Ⅱ(13:45~14:45)

「持続可能な食料および農業と国連持続可能な開発目標(SDGs)のためのFAO共通ビジョン—水田の生物多様性の例、そして人々・暮らし・自然に対するその重要性」

マティアス・ハルワート

(FAO持続可能な農業プログラム主席オフィサー)



◆質疑応答

◆休憩・ポスターセッション・試食(14:45~15:15)

◆各セクターの取り組み事例報告(15:15~16:15)

1. 農業者:稲葉 光國(民間稲作研究所)

「生物多様性を活用した、循環型低コスト有機稲作」

2. 市民団体:岩淵 成紀(NPO田んぼ代表)

「持続的な発展目標SDG'sと水田農業
田んぼの生物多様性がもたらすもの
～田んぼの生きもの認証制度の可能性を探る～」

3. 生活協同組合:小林 新治(コープデリ連合副理事長)

「生産者と消費者のフードチェーンで繋がる
田んぼとお米と環境と」

4. 地方自治体:鮫田 晋(いすみ市農林課)

「学校給食全量有機米の取り組み」

◆パネルディスカッション(16:25~17:25)

「田んぼの生きものが支える食の地域循環とその未来」
(パネラー)

・マティアス・ハルワート(FAO)

・中川 一郎(農林水産省大臣官房政策課環境政策室長)

・古沢 広祐(國學院大學教授)

・呉地 正行(ラムネットJ)

・稲葉 光國(民間稲作研究所)

・モデレーター:浅野 正富(ラムネットJ)



◆閉会行事(17:25~17:35)

「田んぼ10年プロジェクトへの登録のお願い」
ラムネットJ事務局

◆閉会挨拶(17:35~17:40)



ラムサール・ネットワーク日本
<http://www.ramnet-j.org/>
Eメール/info@ramnet-j.org
TEL & FAX 03-3834-6566